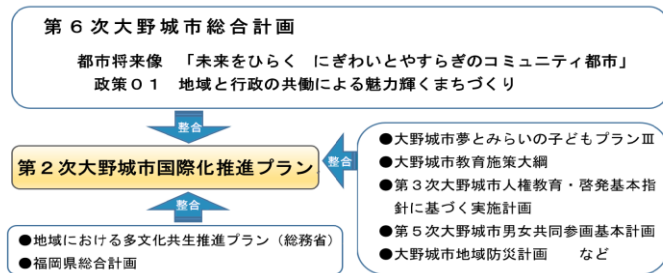


第2次大野城市国際化推進プラン（中間見直し版）概要版

プラン策定の趣旨

市民、地域コミュニティ、企業、関係機関・団体及び市など全てが共働して、国籍を超えた多様な文化や価値観が共存し、だれもが安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいくために、これまでの取組を検証し、実態に即したプランとして策定（見直し）したものです。

プランの位置付け



プランの期間

プランの期間は、平成31(2019)年度からの10年間とし、プランの目標年度を令和10(2028)年度とします。なお、令和5(2023)年度に、社会状況等を踏まえ、内容の見直しを行っています。

プランの基本理念 ひろがる世界 つながる人 にぎわうまち「ONONO」

基本目標と施策 ※多文化共生に関する取組は、SDGsの目標達成にもつながるため、各施策に該当するSDGsのアイコンを基本目標ごとに表記しています。

基本目標Ⅰ 外国人市民も安心して快適に暮らせる環境づくり

〔生活サポート〕

①生活サポート体制の充実

- 市ホームページにおける外国語での「Joe's NEWS」（市広報抜粋版）をはじめとした生活に役立つ情報発信
- 多言語に対応した情報配信ツールを活用した情報発信【新規】
- 各種相談に対する情報の集約と提供
- 市内事業者に対する外国人労働者受入れに関する調査・研究

②外国語による各種制度等の情報提供の充実

- 市役所窓口などにおける外国語版のチラシ・パンフレット・説明資料などの設置、配布

〔教育〕

③小中学校での日本語支援

- 小中学校日本語支援ボランティアの派遣
- 小中学校における日本語支援としての翻訳機器等の活用と充実【新規】

〔防災〕

④外国語による防災情報の提供と意識啓発

- 防災に関する情報の市ホームページやSNSへの掲載
- 福岡県防災アプリ「ふくおか防災ナビ・まもるくん」の活用と災害時要援護者支援制度の周知、登録促進【新規】【修正】
- 出前講座などを活用した外国人市民対象の防災講座の実施

基本目標Ⅱ みんなが主役“まどか”なコミュニティづくり

〔相互理解〕

①国際交流・異文化理解の機会の促進

- 国際交流協会をはじめ、近隣の大学や日本語学校、留学生協会などと連携した国際交流活動の実施

〔コミュニケーション〕

②外国人市民の日本語学習の機会の提供

- 大野城市近郊で開催されているボランティアによる日本語教室の情報提供

〔外国人市民の社会参画〕

③外国人市民の地域への参加促進

- 市ホームページやSNSなどを活用した国際関係団体のイベント情報や活動内容の積極的な周知

④地域資源を活用した国際化の推進

- 市内の店舗などへの福岡県インバウンド協力店制度（福岡よかとこ魅力発信応援団）等の情報提供

基本目標Ⅲ 国際感覚の豊かな人づくり

〔国際交流〕

①国際感覚あふれる人材の育成

- 外国語スピーチコンテストの実施

②国際交流活動の推進

- 大野城市国際交流協会の活動の周知及び支援

〔国際理解・国際協力〕

③国際協力活動の推進

- JICA（独立行政法人国際協力機構）などと連携した国際協力活動に関する情報の提供

- ※ ●は重点取組のみを表記しています。
- ※ ○は中間見直しにより新規で追加した重点取組でない取組を示しています。
- ※ 【新規】は中間見直しにより新規で追加した取組を示しています。
- ※ 【修正】は中間見直しにより取組内容に修正を加えた取組を示しています。



大野城市の国際化を取り巻く現状と課題

大野城市の国際化の現状

- ◆ 外国人市民総人口：1,111人（2005年度末より約2.2倍増）
- ◆ 国籍別比率：中国 > ベトナム > 韓国 > ネパール（上位4か国）※この4か国で全体の71.1%を占める。
- ◆ 在留資格別比率：留学 > 永住者 > 技能・人文知識・国際業務 技能実習1号口（上位4資格）
- ◆ 行政区別比率：白木原 > 山田 > 上筒井 > 南ヶ丘1区（上位4行政区）※特別永住者を除く外国人市民。全体の約3割を占める。

課題◆外国人市民への情報提供の充実・生活サポート⇒【基本目標Ⅰ】

生活情報などの情報を入手していいかわからない。
不安や心配を抱える人が多い。

◆外国人市民とのコミュニケーション・相互理解⇒【基本目標Ⅱ】

相互理解を深める交流の場が求められている。

◆国際化推進の担い手の育成・外国語能力の向上⇒【基本目標Ⅲ】

グローバル化が進展する中、対応できる人材育成が求められる。